

ヒアリングを踏まえた事業者・団体への追加質問 及びその回答(第1回会合分)

1. コロケーションルール及びその代替措置について
2. 接続料と利用者料金との関係の検証(スタックテスト)について

平成29年5月19日
総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 料金サービス課

目次

1. コロケーションルール及びその代替措置について

	質問	対象	ページ
1-1	NTT東日本・西日本の資料(資料1-7)7頁によれば、接続事業者によるコロケーション利用実績は2014年度以降減少傾向にある。利用が減少傾向にある理由は何か。	NTT東日本・西日本 KDDI ソフトバンク	2
1-2	2015年度及び2016年度において、(コロケーションに係る相互接続点の調査及び設置申込の)新規依頼は何件あったか。そのうち、何件設置を断ったか。また、断った新規依頼に関して、それぞれの理由(スペース、電源、その他)は何か。	NTT東日本・西日本	3
1-3	コロケーションに関し、他事業者の都合ではなく自己都合で局舎スペース・電源を増加させることはあるか。その場合、どのような判断基準で増設することになるのか。	NTT東日本・西日本	4
1-4	NTT東日本・西日本が賃借しているNTTコムビルはどこにあるのか。できれば地図で示して欲しい。(構成員限り)	NTT東日本・西日本	5
1-5	Dランクの局舎はどこにあるのか。できれば地図で示して欲しい。(構成員限り)	NTT東日本・西日本	5
1-6	Dランクについて、長期未解消とは、どの程度の期間をいうのか。	NTT東日本・西日本	6
1-7	NTT局舎のうちどの程度が長期間Dランクのままとなっているか。	NTT東日本・西日本	6
1-8	どのような地域でDランクの局舎が多いのか。	NTT東日本・西日本	7
1-9	Dランクとなっている局舎の割合の推移を示してほしい(1997年のコロケーションのルール化以降)。	NTT東日本・西日本	8
1-10	小規模局舎でDランクが多い様だが、規模別(機械室面積)のDランクの割合を示してほしい。	NTT東日本・西日本	9
1-11	過去10年で、Dランクの局舎からCランク以上になったものは何件あるか。逆にCランク以上からDランクになったものは何件あるか。	NTT東日本・西日本	10
1-12	Dランクとなっている局舎の今後の見通しを教えてください。	NTT東日本・西日本	11
1-13	プレゼンの中で、マイグレの際に機器入替のために一時的に余分のラックスペースが必要となるとの説明があったが、具体的にどの設備をどのような設備に入れ替えることを考えているのか。	ソフトバンク	12

2. 接続料と利用者料金との関係の検証(スタックテスト)について

	質問	対象	ページ
1-14	営業費の基準(20%)の根拠と妥当性をどのように考えるか。変更の必要はあるか。	NTT東日本・西日本 KDDI ソフトバンク	13
1-15	諸外国のメタル接続料が低廉で変化があまりない理由はどのような考え方が背景にあるのか。ノルウェー、英国におけるLRIC見直しとはどのような背景でどのような理由づけで行われたのか。もし知見があれば、ご教示いただきたい。	ソフトバンク	15

1-1

NTT東日本・西日本の資料(資料1-7)7頁によれば、接続事業者によるコロケーション利用実績は2014年度以降減少傾向にある。利用が減少傾向にある理由は何か。

【NTT東日本・西日本、KDDI、ソフトバンク】

回答

○NTT東日本・西日本

携帯事業者やFTTHサービス事業者様のコロケーションに係る利用実績は増加傾向にあるものの、2014年～2015年にかけてのドライアップ電話事業者(KDDI殿)の事業撤退等による利用実績の大幅減少の影響によって、2014年以降はコロケーション利用実績が減少しているものと想定しています。

○KDDI

社内構成員限り

当社では、2016年6月末をもってメタルプラス電話サービスを終了しており、当該サービス提供のための設備を2016年度中に撤去しております。その影響で、2016年度については前年度に比べて [] 架ほどコロケーションの利用が減少しております。NTT東・西の資料では、2016年度については、全体で1千架の減少となっておりますので、このような特殊な要因を除けば(当社の特殊要因を除けば [])、コロケーションの利用は減少していないと考えます。

○ソフトバンク

2014年度以降、NTT東西殿全体でコロケーション利用実績が減少傾向にある理由について弊社では詳細は分かりませんが、当社グループの実績としては、ADSL事業等に係る設備を撤去していく一方で、モバイル基地局等回線の収容設備の設置を進めており、2014年度以降も減少はしていません。

1-2

2015年度及び2016年度において、(コロケーションに係る相互接続点の調査及び設置申込の)新規依頼は何件あったか。そのうち、何件設置を断ったか。また、断った新規依頼に関して、それぞれの理由(スペース、電源、その他)は何か。

【NTT東日本・西日本】

回答

- 2015年度及び2016年度における「相互接続点の調査及び設置申込」(接続約款第10条の3に基づく手続き)の実績(東西計)は、2015年度: 8,322ビル、2016年度: 12,992ビルとなっております。
- 上記のうち、コロケーションをお断りしたビル数は、2015年度: 95ビル、2016年度: 139ビルとなっております。なお、コロケーションをお断りした理由は、スペース又は電力容量の空きが無いことによるものです(両方の空きが無い場合を含む)。
- 詳細については、下表をご覧ください。

■ 申込延べビル数

区分	東西合計	
	2015年度	2016年度
合計(ビル数)	8,322	12,992
(再)設置可能回答(ビル数)	8,227	12,853
(再)設置不可回答(ビル数)	95	139
(再々)スペース・電力双方の空きが無いことによるもの	34	47
(再々)スペースの空きが無いことによるもの	16	21
(再々)電力容量の空きがないことによるもの	45	71

1-3

コロケーションに関し、他事業者の都合ではなく自己都合で局舎スペース・電源を増加させることはあるか。その場合、どのような判断基準で増設することになるのか。

【NTT東日本・西日本】

回答

- 局舎スペースの増床を行うことはありえますが、近年（少なくとも、過去5年間）、その実績はございません。
- なお、震災の復旧対応として、ビルの建て替え・移設に伴う局舎スペース等の新設を行ったことはありますが、その際には、当社設備に係る需要のみならず、他事業者設備に係る需要も総合的に勘案の上、適切な規模のビルに建て替え等するよう対応してきたところです。
- また、電源設備についても局舎スペースと同様に、その増設を行うことはありえますが、老朽化による設備更改時を除くと、近年（少なくとも、過去5年間）、その実績はございません。
- なお、電源設備を更改した実績はあるものの、その際には、当社設備に係る需要のみならず、他事業者設備に係る需要も総合的に勘案の上、適切な規模の電源設備に更改するよう対応してきたところです。

1-4

NTT東日本・西日本が賃借しているNTTコムビルはどこにあるのか。できれば地図で示して欲しい。(構成員限り)

【NTT東日本・西日本】

1-5

Dランクの局舎はどこにあるのか。できれば地図で示して欲しい。(構成員限り)

【NTT東日本・西日本】

回答

- NTT東日本・西日本が、コロケーションリソース(スペース・電力)をNTTコミュニケーションズ株式会社殿より賃借している、NTTコミュニケーションズ株式会社殿所有のビル、およびDランクビルの位置は別紙(構成員限り)のとおりです。
- なお、接続事業者様には、別紙と同等の情報を開示させていただいております。

1-6

Dランクについて、長期未解消とは、どの程度の期間をいうのか。

【NTT東日本・西日本】

1-7

NTT局舎のうちどの程度が長期間Dランクのままとなっているか。

【NTT東日本・西日本】

回答

- 「接続料の算定に関する研究会」(第1回・平成29年3月27日)での当社資料8ページ目においては、2012年3月末より調査可能な直近の2017年2月末までの約5年の間、東日本においては毎月月末時点・西日本においては毎年度末時点においてDランクであり続けたビル※を「長期Dランク未解消ビル」と定義して、ご説明させていただいたところであり、該当のビル数は、148ビル(構成比3.0%)となります。
※西日本のみ、同一敷地内の隣接ビルの空きスペースを利用することで、機器の設置が可能なビルについてもDランクとして集計
- なお、西日本の集計方法を東日本と同様の集計方法とした場合、「長期Dランク未解消ビル」の数は、プレゼンで申し上げた148ビル(構成比3.0%)から、139ビル(構成比2.9%)に減少します。

1-8

どのような地域でDランクの局舎が多いのか。

【NTT東日本・西日本】

回答

Dランクビルは、概ね大都市（県庁所在地等）以外の地域に存在し、比較的狭隘なビルが多い傾向となっております。

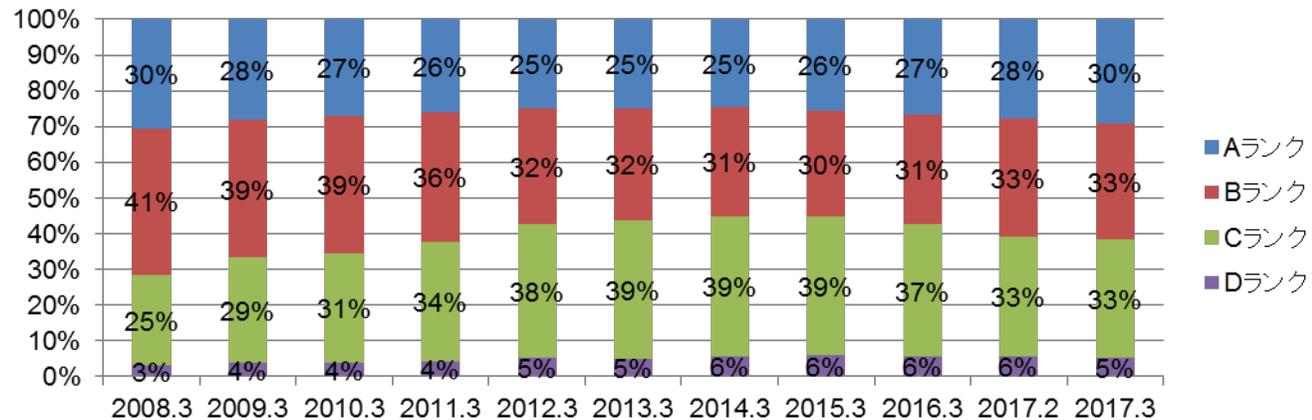
Dランクとなっている局舎の割合の推移を示してほしい(1997年のコロケーションのルール化以降)。

【NTT東日本・西日本】

回答

コロケーションスペースがDランクであるビル数の推移(東西計)について、1997年度から2006年度までについてはデータを保存していないため、お示しすることはできませんが、2007年度末以降については、以下のとおりです。

■スペースランク別構成比推移(東西計)



	2008.3	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	2017.2	2017.3
Aランク	30%	28%	27%	26%	25%	25%	25%	25%	27%	28%	30%
Bランク	41%	39%	38%	36%	32%	31%	30%	30%	31%	33%	33%
Cランク	25%	29%	30%	33%	37%	39%	39%	39%	37%	33%	33%
Dランク	3%	4%	4%	4%	5%	5%	6%	6%	6%	6%	5%
<参考>Dランクビル数	164	198	197	215	254	250	286	302	280	288	259

1-10

小規模局舎でDランクが多い様だが、規模別（機械室面積）のDランクの割合を示してほしい。

【NTT東日本・西日本】

回答

コロケーションスペースがDランクであるビルの機械室面積別の一覧（東西計）は下表のとおりです。Dランクビルの大宗は機械室面積が500㎡未満のビルとなります。

2017年2月時点

機械室面積	東西合計 全てのビル ①	(再) Dランクビル ②		Dランクビル 割合 ②/①
			構成比	
合計	4,995	288	100.0%	5.8%
(再)500㎡未満	3,089	279	96.9%	9.0%
(再)500㎡以上1,000㎡未満	676	7	2.4%	1.0%
(再)1,000㎡以上	1,230	2	0.7%	0.0%

※開示上Dランクだが、同一敷地内の隣接ビルの空きスペースを利用することで機器の設置が可能なビルを除く（西日本のみ。なお、東日本は当初よりDランクとして取り扱っていない。）

1-11

過去10年で、Dランクの局舎からCランク以上になったものは何件あるか。逆にCランク以上からDランクになったものは何件あるか。

【NTT東日本・西日本】

回答

- コロケーションスペースについて、2008年3月末より2017年2月末までの約10年の間、毎月月末時点（東西計）のデータがDランクからCランク以上に変更となった件数は527件、Cランク以上からDランクに変更となった件数は651件です。（数値は変更となったのべ件数。同一ビルのランクがD→C→D→Cと変更された場合は、『DランクからCランク以上に変更となった件数』に2件として計上。）
- なお、月途中でのランク変動によりDランクとなったものが、Cランクを経て月末時点でDランクとなったビルについては、上述のランク変更件数に計上していません。

1-12

Dランクとなっている局舎の今後の見通しを教えてください。

【NTT東日本・西日本】

回答

- ドライカップ電話市場が縮小傾向にあること、技術革新により装置の小型化・集約化が図られること等によって、コロケーションスペースの利用が減少することが予測される一方で、市場全体のトレンドとして、IoTの進展やブロードバンドサービスのトラフィック急増により、コロケーションスペースの利用は増加するとも予測されることから、Dランクビルの今後の見通しを予測することは困難です。
- なお、プレゼンでも申し上げたとおり、当社としては、サービス終了・効率化等による装置撤去や更改予定の見直しに伴い、利用・確保済の資源が不要となった場合には、個別ビル単位で、接続事業者様(利用部門を含む)が利用可能なリソースとして速やかに開放していく運用を徹底し、利用可能なリソースの拡大に努めていく考えです。

1-13

プレゼンの中で、マイグレの際に機器入替のために一時的に余分のラックスペースが必要となるとの説明があったが、具体的にどの設備をどのような設備に入れ替えることを考えているのか。

【ソフトバンク】

回答

社内構成員限り

過去に設置したL2SWやL3SWなどの装置におけるEoS(L(ベンダーの機器サポート終了)に伴う設備更改が該当すると考えます。また、弊社直収電話サービスの加入者収容設備の一部のEoSにより、 ノードの設備更改等も行う予定です。更改時にはサービス断時間を極力短くするため、まず更改先の新設備を既存設備と併存する形で設置し、その後既存設備に収容されている回線を新設備に順次移行し移行完了後に既存設備を撤去する工程を取ります。

1-14

営業費の基準(20%)の根拠と妥当性をどのように考えるか。変更の必要はあるか。

【NTT東日本・西日本、KDDI、ソフトバンク】

回答

○NTT東日本・西日本

- スタックテストは、接続料の水準と、接続料設定事業者が当該接続料に係る機能を用いて提供するサービスの利用者料金の水準を比較することで、接続料設定事業者と接続事業者との間に不当な競争を引き起こすおそれがないか検証するために実施するものです。
- その接続料の水準と利用者料金の水準の差について、不当な競争を引き起こすおそれがないかどうか詳細検討するプロセスに入る前のスクリーニングに用いる基準として、現在、営業費の基準(20%)が用いられているものと認識しています。
- 当該基準について、NTT東西の電気通信事業収益の対営業費比率を根拠とする現在の方法は適当であると考えますが、2001年～2005年度会計実績に基づき算定した当該比率の約17%という水準は、2015年度会計実績に基づき算定した場合、約11%となっていることから、当時の約17%という水準を鑑みて設定された20%という現行の水準について、その妥当性を検討する余地はあると考えます。

1-14

営業費の基準(20%)の根拠と妥当性をどのように考えるか。変更の必要はあるか。

【NTT東日本・西日本、KDDI、ソフトバンク】

回答

○KDDI

営業費の基準(20%)の根拠については、「接続料と利用者料金との関係の検証(スタックテスト)の運用に関するガイドライン」(平成24年7月)に定めのある通り(※)で、妥当なものと考えますが、参考としている実績が2001年～2005年度の平均実績であり、既に10年以上が経過していることから、一度直近の実績を確認することも有効だと考えます。ただし、光コラボレーションモデル開始後(2015年2月以降)については、NTT東・西の営業体制が小売から卸売に変化していることから、その相違等について留意が必要です。

※「接続料と利用者料金との関係の検証(スタックテスト)の運用に関するガイドライン」(平成24年7月)より

ウ 検証方法

検証区分ごとに、利用者料金収入と接続料収入との差分(営業費相当分)が営業費の基準値を下回らないものであるか否かを検証する。

接続料設定事業者である東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の電気通信事業会計における電気通信事業収益(電報収入を除く。)の対営業費(顧客営業、販売サポートのうち特約店に支払う取次手数料、宣伝及び企画に係るものを除く。)比率が20%弱(01～05年度の平均値)であることにかんがみ、本検証における営業費の基準値を利用者料金収入の20%とし、営業費相当分が当該基準値を下回っていない場合、当該接続料の水準について、スタックテストの観点からは妥当と判断する。

○ソフトバンク

現在スタックテストに用いる営業費は特約店に支払う取次手数料、宣伝及び企画に係るものが除かれていますが、接続事業者は、設備を借り入れて接続料を払った上に、広告費等の営業費用をかけることで他事業者と競争をして、売り上げをあげることができるため、「接続料水準が当該接続料を設定する事業者と接続事業者との間に不当な競争を引き起こさないための検証」というスタックテストの趣旨からも、特約店に支払う取次手数料、宣伝及び企画に係るものを含めたうえで算定を行うことが適当です。

1-15

諸外国のメタル接続料が低廉で変化があまりない理由はどのような考え方が背景にあるのか。ノルウェー、英国におけるLRIC見直しとはどのような背景でどのような理由づけで行われたのか。もし知見があれば、ご教示いただきたい。

【ソフトバンク】

回答

ヨーロッパではLRICやプライスキャップ等の料金規制が積極的に採用されているため、料金が低廉かつ変化が少なくなっております。そうした料金規制を採用することで、特に新規サービスへの移行期においては、既存サービスの接続料は効率的なネットワーク環境を想定された値付けが行われるため、新規サービスへの投資を進めるほど既存サービスにおけるコスト削減利益が生まれる一方で、既存サービスの接続料を低く抑えることができると考えられます。

採用の背景には、通信はライフラインであるため保護すべきという観点や、需要減少に関係なく実績原価として費用を全回収する日本の考え方とは対照に、需要が減少するに従って資産価値も減少するという時価ベースの考え方があります。

■日本とヨーロッパの違い

